

令和 6 年度 第 2 回恵庭市食育推進協議会 会議録

日 時 :令和 6 年11月18日(月)15時00分～16時00分

場 所 : えにあす 2 階 会議室8

出 席 : (委員) 戸花委員、今野委員、田中委員、木幡委員、竹田委員、伊藤委員、
松本委員、滝沢委員、藤野委員、黒氏委員、山野辺委員、市川委員、
辰下委員、五十嵐委員、中山委員

(事務局) 保健福祉部長、保健センター長、保健課長、
保健課健康推進・食育担当主査、保健課 栄養士・歯科衛生士・保健師

欠 席 : (委員) 田原委員、島田委員、吉田委員、新保委員、亀石委員、上山委員、
高橋委員

傍 聴 : 1名

1.開会

・保健課長

会議の出席は委員総数 22 名中15名であり、恵庭市食育推進協議会設置要綱第 5 条の規定により成立。

2. 議題

会長の進行により、議事の審議が進められた。審議内容は次のとおり。

(1) 第4次恵庭市食育推進計画(素案)について

・事務局より、「第4次恵庭市食育推進計画(素案)」について【資料1、2、3】をもとに説明。

【意見・質問等】

○滝沢委員:新たに食品ロスに関する目標が設定されたということだが、恵庭市ロスの現状について教えていただきたい。

○中山委員:恵庭市の食品ロスの現状について調査を行ったところ、令和4年度の一年間で 651 トンと推計されており、市民一人当たりになると約9.3キロの食品を捨てている試算になる。

○田中会長:他の市町村と比べるとどうか？

○中山委員:恵庭市は生ごみを分別し、バイオガス化している点では先進的だと思うが、それでも食品ロスがこれだけあるのだなという印象。

- 黒氏委員：基本理念の「食をとおして、生涯にわたる健やかな暮らしの実現をめざす」を「食をとおして、生涯にわたる健やかな暮らしの実現」としたほうが表現として良いのではないか。
- 木幡委員：恵庭産食材を給食で活用しやすくなるような助成などがあれば、目標に近づけられるのではないか。
- 山野辺委員：学校給食における恵庭産食材の使用割合について、そのように努めてはいるが、割合として 20%を切る状況が続いている中、目標値の 30%を達成するのはなかなか厳しいと思う。ちなみに、ここで示されている割合は主食の米は入っていないということか？
- 事務局：野菜のみで米は入っていない。
- 黒氏委員：同じく学校給食における恵庭産食材の使用について、恵庭産だけでなく地元産（道内産）の活用割合とするのはいかがか。
- 田中会長：そもそも、この目標が設定された基本的な考え方は、子どもたちが自分たちの身近なところで生産された食材が流通して、食卓に届くということへの理解、生産者の思いなどを知ることだ。その点を踏まえ、割合の出し方や生産地の範囲などを検討する必要があると考える。
- 田中会長：市民の「食育への関心」が低下してしまったとあるが、考えられる要因や、今後関心を高めるための取り組みについて何かあるか。
- 事務局：食育への関心の低下については、原因ははっきりとは分からないが、性別や年代別に関心度合に差があることなどを分析した上で、関心を持ってもらうための取り組みの検討が必要だと考える。本協議会の場合でも協議させていただきたい。
- 竹田委員：小中学生の朝食摂取頻度について、調査の設問の選択肢が「毎日必ず食べる」だと、たまたま具合が悪くて食べられない日があったとしても正直にほかの選択肢にしてしまう可能性があるので、検討の必要があると考える。
- 事務局：調査の際に選択肢について、担当部署と検討させていただく。
- 田中会長：今回食品ロスに関する目標が設定されたということだが、担当課として考えている取り組み等あれば教えていただきたい。
- 中山委員：昨年度「食品ロス削減推進計画」を策定した。取り組みとしては、北海道文教大学食育アイドルプロジェクト（えにわっ娘、IX-ALICE（イザリス））とコラボし、啓発ポスター作製・掲示を行ったり、食品ロス削減をテーマにした楽曲の MV の撮影をした。他には、「ガーデンシティえにわ FOOD BAG」として、食べ残し料理の持ち帰り容器を市内飲食店に配布している。

○田中会長:それでは、いただいた意見等の計画への反映について、事務局に一任として
よろしいか。

○全委員:異議なし。

(2)その他

・事務局より今後の協議会スケジュールについて説明。次回、第3回食育推進協議会は
令和7年 2 月に開催予定。

全体を通して【意見・質問等】

○特になし

3.閉会